

令和2年度 第2回沖縄県がん診療連携協議会 離島・へき地部会 議事要旨

日 時：令和2年9月8日（火） 15：00～16：25

場 所：ZOOM を利用した Web 開催

構 成 員：13名

出 席 者：7名

戸板孝文（中部病院）、友利寛文（那覇市立病院）、中山幸子（宮古病院）、真栄里隆代（ゆうかぎの会）、平良美江（八重山病院）、田盛亜紀子（やいまゆんたく会）、増田昌人（琉球大学病院がんセンター）

欠 席：6名

尾崎信弘（八重山病院）、赤松道成（北部地区医師会病院）、松村敏信（宮古病院）、仲里可奈理（沖縄県保健医療部健康長寿課）、我如古春美（北部地区医師会病院）、朝倉義崇（中部病院）

陪 席 者：1名

野底尚子（琉球大学病院がんセンター）

【報告事項】

1. 令和2年度 第1回離島・へき地部会議事要旨について

増田委員より、資料1に基づき令和2年度第1回離島・へき地部会議事要旨について説明があった。変更等があれば事務局まで連絡するよう説明があった。

2. 「要望書」の取り扱いについて

増田委員より、要望書に関しては次回以降に進める旨の説明があった。

3. その他

特になし。

【協議事項】

1. 離島・へき地部会の事業計画について

増田委員より資料3に基づき今年度の事業計画について説明があった。

田盛委員より患者会からの提案として意見があり、離島から本島の病院へ治療に行く際の支援として、県より①渡航費助成と②宿泊助成があり、①渡航費助成は認知されており活用する人も多いが、②宿泊助成に関してはあまり活用する人がいない。その宿泊助成について、申請対象は「ホテルに宿泊して通院」のみが該当し、「入院して治療」は対象外となっている。宿泊することには変わりはないので入院の場合も同じように助成されるべきでは？との意見があった。友利委員より、本島の患者も自己負担で入院費を払っている。本島の患者と離島の患者で区別することはできないとの意見があった。

真栄里委員より、助成を行っている市町村に対して県がその費用の一部を補助してい

る。まずは市町村に支援を充実してもらえるように市議会や行政とディスカッションしてはどうかと意見があった。田盛委員より市議会・県議会に提案してもらおうように働きかけをしていきたいと回答があった。

真栄里委員より、コロナ禍で不安を抱えたまま離島から本島へ治療に行く患者さんや行けない患者さん、先生が来られない等、現在どんなことが起きているのか、それに対して部会でどのようなことができるかを考えてはどうか、と提案があった。増田委員より、部会としては次の3つのことを進めていきたいと話があり、①宮古病院と八重山病院は地元の方に地元でできる治療とできない治療についてしっかり情報提供をすること、②セカンドオピニオンは本島に来る必要があるので、事務局で何ができるかを検討したい、③コロナ禍の中、部会で何ができるかをリストアップして働きかけしていきたいと説明があった。

2. 離島・へき地から本島内の放射線治療施設への紹介手順等について

戸板委員より資料4に基づき説明があった。

中山委員より資料4-2の「離島から本島の放射線治療施設へ転院する際のチェックリスト」にADL選択の項目を加えてはどうかと意見があり、全員一致でチェックリストに加えることが決まった。また、真栄里委員より資料4-1の「沖縄県内での放射線治療対応施設」の一覧をがんサポートハンドブックに掲載してほしい、その病院の所在地もあわせて載せてほしいと意見があった。増田委員より、がんサポートハンドブックは予算の都合でページに限りがあるので、編集員のメンバーで検討をしたいと回答があった。資料4-1と4-2の運用方法としては放射線治療を開始する際に診療情報提供書に4-2のチェックリストを添付して提出することで決まった。10月開催予定の沖縄県がん診療連携幹事会の議題に上げ、11月の協議会で決議をもらい運用を始めていくことになった。戸板委員より、離島だけでなく北部地区にも利用してほしいと説明があった。

3. その他

特になし。